

「なじみの高齢女性客のようすが気になる。最近になって高額の商品ばかり求めようとするし、事情を聞いても話してくれないので心配。こんなときどうすればいいのか」常連の50代男性が孤立死した。すぐ近くに住んでいたのに気づくことができず、とてもショック。もっと早い段階で支援に結び付けられなかったのか」箕面市社協には商店や事業者からさまざまな声が寄せられます。

同社協は、自身の変化や課題に気づいていない人やSOSを出せない人など、地域で孤立している潜在的な要支援者に対する気づきを、いち早く適切な支援につなげる「みのお見守り支援システム『よりそい隊』活動」

地域住民の 小さな変化を見逃さない



箕面市社会福祉協議会

を昨年9月から本格的にスタートさせました。

地域住民の孤立を防ぐとともに、財産被害にあわないよう、従前から力を入れてきた地区福祉会や民生委員の日常的な見守りに加え、市内の商店や各種事業者に協力を呼びかけ、異変の察知と早期対応を迅速に行えるよ



協力事業所に掲げられているプレート

うにすることがねらいです。

現在の登録は郵便や荷物の配達業者、医院、商店など120事業者。社協職員が地道に訪問し、主旨に賛同する事業者のネットワークが着実に広がっています。

この仕組みは、小地域ネットワーク活動と連動することで、見守り機能のさらなる充実が期待されます。平井博文会長は「事業者には仕事をしながら、何気なく住民の変化にも気にかけてもらい、ささいなことでも社協へつないでほしい。それが地域住民にとっての安心感につながる。今後は公共料金の検針や金融機関、消防や警察など幅広く見守りの目を増やしていきたい」と力強く事業者への期待と今後の抱負を話しました。

地域の住民力 最前線



第5回

発見！発信！ 「茶の間」がつなぐまちづくり

NPO法人くらしのたすけあい えぶろんの会(阪南市)

「チョットと洒落て、憩えて、寛げる」地域の人々が気軽に立ち寄れる交流や生きがいづくりの場としてスタートした『茶の間ギャラリー(以下、ギャラリー)』は、4月で開設から丸6年。週6日の開催で、月に延べ約700人の住民が集います。

運営には25人の登録ボランティアが協力し、喫茶やバザー・展示会等の開催、地域の方から提供いただいた農園で作った有機野菜の販売も行っています。

また、多くの利用者や買物が移動や買物に関する



十四匠を知る展示と交流会の様子

る困りごとを抱えていたことや、地場産品である『阪南ブランド十四匠』を知らなかったことから、ニーズを充足しながら地域活性化にもつなげられないかと商工会に相談を持ち掛け、約3年前から地元商店や農協、今年度からは地元漁協の協力も得て、定期的な販売会を実施しています。

さらに、「温かい昼食を食べたい」「毎日の食事を楽しみたい」との地域の声に応えるため、ひとり暮らし高齢者を対象とした昼食の販売を検討中。ボランティアや料理自慢の地域住民が調理を担う予定です。

ギャラリーの原点は、掃除や洗濯、買い物といった日常の困りごとを住民同士の助け合いで解決し、地域全体で住み続けられるまちづくりをしようとはじめた住民参加型の在宅福祉サービス。代表の岩井俊子さんは、「集える場が欲しいとの地域の声から生まれたこのギャラリーを介して、これからも多くの人の出会い・つながりを演出し、地域を活性化しながら、元気なまちづくりに貢献していきたい」と抱負を語ります。

※阪南ブランド十四匠…繊維産業や金属製造業、食品製造業等、知名度が高い企業を地域ブランドの認定企業とした。

鍵預かります！

緊急時安否確認事業 全市的实施へ



寝屋川市社協では、24年度から市内の東北コミュニティセンターエリアでモデル的に実施していた「緊急時安否確認(かぎ預かり)事業」を、26年度から全市的に開始することになり、1月24日、この事業に協力する21施設との協定締結式がありました。

本事業は、ひとり暮らし高齢者の孤立死等の予防を目的に、利用申込者から家屋出入り口の鍵を預かり、緊急時と判断されるときに鍵を使って家屋内に入り安否確認や必要な対応を行うもの。市内6つの各エリアを実施区域として、地区福祉委員会(各区域内に3〜4)が実施主体となり、施設(同1〜6)は地域貢献業務としてこの事業を位置づけ、鍵の保管・管理や受け渡

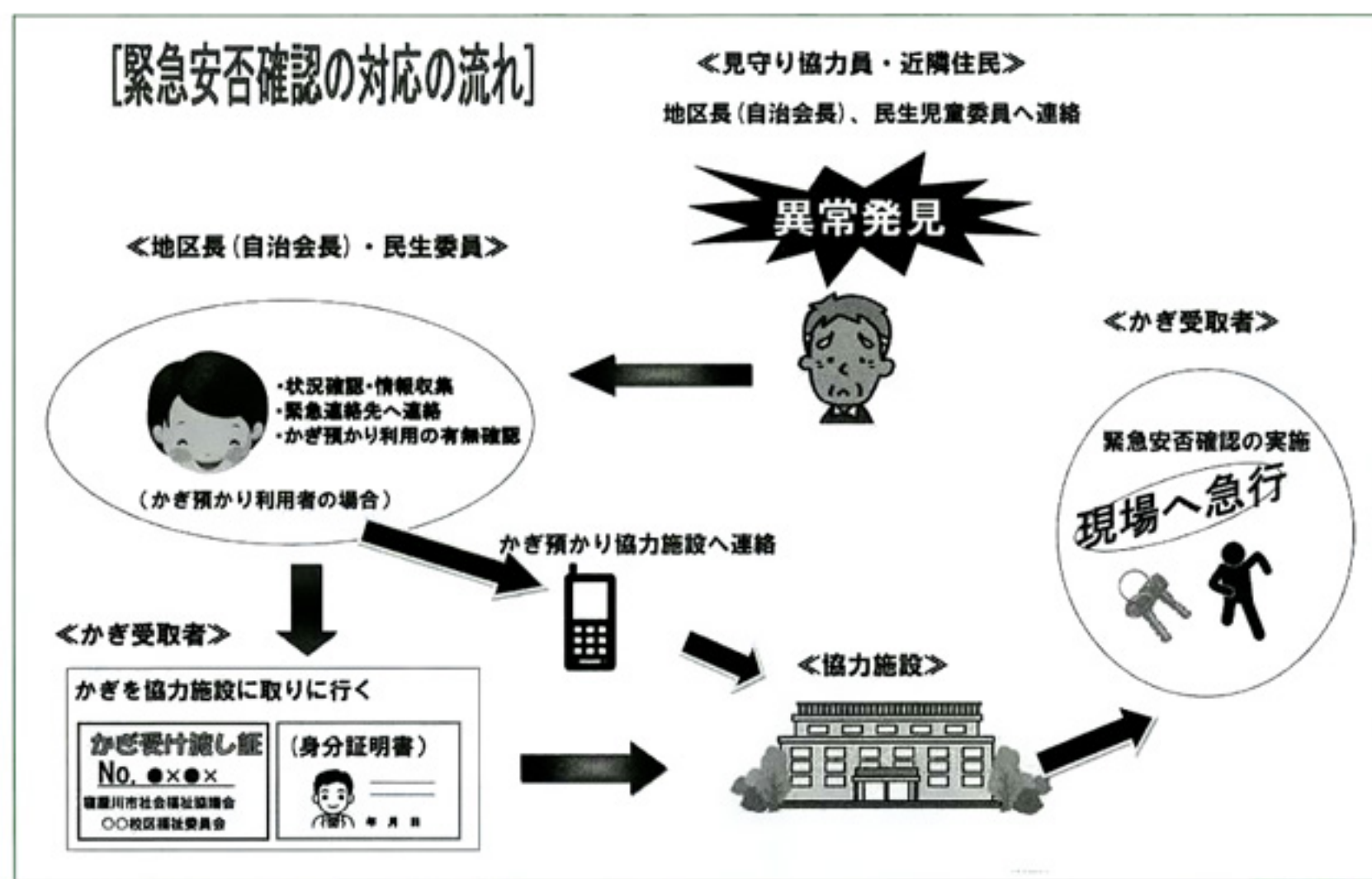


緊急時安否確認(かぎ預かり)事業 協定締結式
協定を交わす下川隆夫会長(右/寝屋川市社協)と山田和弘理事長(左/社会福祉法人栄光会寝屋川十字の園)

し等に協力します(図参照)。

ひとり暮らしの人からの不安の声や、地域からの「近所の様子がおかしい」とに気づいても、鍵を壊して中に入るわけにいかない。「個人的に鍵を預かると、もし自分がいないときどうなるのか、責任をもつのが難しい」といった声を受け、異変を感じたときにスムーズに安否確認ができる仕組みをつくらうと、地区福祉委員会の

メンバーが、区域内の候補となる高齢者施設に趣旨を説明に行き、協力を求めて実現しました。締結式に参加した、「寝屋川市ひとり高齢者の会」の表綾子さん(80歳)は、2年前の夏に近所の人に鍵を預けてあったことで助かった経験を話し、「この取り組みは非常に心強い。寝屋川だけでなく、大阪府内にそして全



大阪府市町村
社協連合会

「市町村社協の法人運営のあり方と
適正な組織運営」報告書まとめる

大阪府市町村社協連合会は、住民や関係機関から社協に対する理解と信頼を得られるよう、法人運営部門強化が喫緊の課題であるとして、本年度は、重点課題の一つに「法人運営部門の強化」を掲げ、適正な組織運営の徹底をめざし、取り組みを進めてきました。

このたび、事務局長会議(3回開催)で行った、専門家による講義とそれをふまえての課題協議や情報交換の内容、連合会会長研修での「積極的な情報開示と適切な財務管理体制の構築」をテーマとした講演内容等について、報告書にまとめました。

報告書には、事務局長会議で取り上げた「内部統制制度」「リスクマネジメント」「労務コンプライアンス」のテーマについて、各社協において「法人運営のあり方」を検討していくうえで多くの意見が交わされた事項について、9つのチェックポイントとしてまとめ、グループディスカッションで共有した各社協での取り組みやアイデアも掲載しています。

今後、本報告書を活用し、さらに地域で信頼される社協をめざして取り組んでいきます。